

## 平成28年度第2回墨田区地域福祉計画推進協議会議事要旨

日 時： 平成29年1月31日（火）10時から11時45分

場 所： 墨田区役所12階 121会議室

議事内容： 1 開 会

2 福祉保健部長あいさつ

3 議事

(1) 第三次墨田区地域福祉計画（後期）11月末時点の報告  
主に利用者の声について

(2) 各計画の紹介について

(3) 第3次墨田区地域福祉活動計画「中間のまとめ」の現状報告

(4) 社会福祉法人改革について

(5) 墨田区地域福祉計画で掲げるプラットフォームについて

(6) 副会長の講評

4 閉 会

### 【会議資料】

資料1 「第三次墨田区地域福祉計画（後期）11月末時点の報告 主に利用者の声」

資料2 「墨田区の福祉保健分野における計画」

資料3 「すみだいきいきプラン（第3次墨田区地域福祉活動計画後期）」

資料4 「社会福祉法人制度の改革」「社会福祉法人制度の概要と評議員の役割」

資料5 「墨田区におけるプラットフォーム」

墨田区地域福祉計画推進協議会委員

氏名	所属	出欠席
山口 稔	関東学院大学教授	出席
市川 菊乃	墨田区医師会会長	欠席
大久保 勝久	東京都向島歯科医師会	出席
青山 晰子	墨田区薬剤師会副会長	出席
鎌形 由美子	墨田区民生委員・児童委員協議会会長	出席
荘司 康男	墨田区障害者団体連合会会長	出席
野原 健治	墨田区私立保育園協会、興望館館長	出席
沼田 典之	墨田区老人クラブ連合会会長	出席
横山 信雄	墨田区社会福祉事業団事務局長	出席
栗田 陽	墨田区社会福祉協議会事務局長	出席
宮村 柚衣	墨田区男女共同参画推進委員会	欠席
石鍋 光子	朗読奉仕「くさぶえ」監査	欠席
伊藤 林	個人ボランティア	出席
井上 久子	録音グループかりん会長	出席
齊藤 宮子	点訳グループ「きつつき」会長	出席
外川 浩子	NPO法人「マイフェイス・マイスタイル」代表	出席
青木 剛	墨田区福祉保健部長	出席
石井 秀和	墨田区子ども・子育て支援担当部長	出席
北村 淳子	墨田区保健衛生担当部長	出席
鹿島田 和宏	墨田区区民活動推進部長	出席

事務局

厚生課長 三浦 博司  
 生活福祉課長 倉松 邦多  
 障害者福祉課長 小板橋 一之  
 介護保険課長 栗林 行雄  
 高齢者福祉課長 福田 純子  
 介護・医療連携調整担当副参事 梅原 和恵

厚生課 東條、堀井、柴田  
 高齢者福祉課 野原

その他

傍聴者 1名

議事録（各委員確認用）

【 1 】 福祉保健部長あいさつ

本日の議題の紹介等をした。

【 2 】 後任委員の紹介について

厚生課長から、平成 28 年 12 月 1 日付けで地域福祉計画推進協議会委員に就任した、墨田区民生委員・児童委員協議会会長 鎌形由美子氏を紹介した。

【 3 】 議事：第三次墨田区地域福祉計画（後期）11 月末時点の報告 主に利用者の声について  
厚生課長から、資料 1 を用い、各事業の利用者の声等を発表した。

【質問】

○「小地域福祉活動実践地区の拡大」事業の利用者の声に、見守りが広がっているとあるが、この活動をどのように把握しているのか。（委員）

小地域福祉活動を実際に行っている人からの声だと思われる。（厚生課長）

小地域福祉活動から範囲が拡大して見守りが広がっている。（委員）

この活動以外にも様々な場所で見守りは行われていると思う。（委員）

○「すみだ地域福祉・ボランティアフォーラムの開催」事業の利用者の声に、事業の課題も上がっているが、これを受けてどのように改善していこうか考えはあるか。（委員）

事前に解決できる課題があれば解決に向けて努力していきたい。また、「若い世代の参加者が少ない」という課題に対しては、改善の努力をしているが、なかなか解決策が見つからない。（委員）

【 4 】 議事：各計画の紹介について

厚生課長から地域福祉計画に関係する各計画について、資料 2 を用い説明した。

【 5 】 議事：第 3 次墨田区地域福祉活動計画「中間のまとめ」の現状報告について  
墨田区社会福祉協議会事務局長である栗田委員から、資料 3 を用い説明した。

【質問】

○第 3 次墨田区地域福祉活動計画の策定委員長でもある鎌形委員から、ご意見等がある場合はお聞きしたい。（委員長）

墨田区社会福祉協議会は民間であることを区民の方に、より理解していただくとともに、社会福祉協議会の活動に賛成してくださる方には、ご寄附をお願いしたい。（委員）

○小地域福祉活動の現状等を教えて欲しい。（委員）

墨田区は町会・自治会の単位で小地域福祉活動が行われている。現在、墨田区に 169 町会あり、そのうち、50 を超える町会で小地域福祉活動が行われている。（委員）

○地域に住む区民が高齢化しており、若い人をどのように取り込んでいくか、担い手をどう育てて

いくつかが課題となっている。(委員)

○今後、このような活動はどのような広がりを見せていくか。(委員長)

制度に対する理解が深まっているため、活動が広まってきている。今後も拡大できるよう努力していきたい。(委員)

【6】 議事：社会福祉法人改革について

野原委員長から資料4を用い、主に、社会福祉法人の公共性について説明した。

【7】 議事：墨田区地域福祉計画で掲げるプラットフォームについて

野原委員長から以下のとおり説明した。

プラットフォームの意味に議論があるため、今回は再度取り上げさせていただいた。

プラットフォームという単語は分かりづらく、鉄道にあるプラットホームと間違いやすい。墨田区地域福祉計画で掲げるプラットフォームは「板状に乗った人々の集まり」と解釈される。その板の上には、特に生活問題に関するテーマがある。プラットフォームは、現在でも様々なものがあるが、類型化すると3つに分けられる。(資料5参照)

問題ごとにプラットフォームが存在するため、この委員会で再度認識していただけたらと思いい情報提供をした。

【感想】

○前回よりもプラットフォームの意味が理解できた。(委員)

○老人クラブも大きな意味でプラットフォームに乗っている。これからも、プラットフォーム論を用いて課題を解決していければいいと思う。(委員)

○この会議では、プラットフォームという言葉が出てくるが、他の会議では出てこない。個人的なプラットフォームの理解の仕方は、料理をするときと似ていると思う。例えば、鍋を食べたいと思った時に、1つの鍋にどのような具材を入れるのか、作り方をするのかと考えるのと同じと思う。(委員)

○プラットフォーム以外の言葉で表現ができれば、もっと分かり易いのではないかと思う。例えば、カタカナ言葉をやめるなど。また、会議に若い人をもっと入れるべきだと思う。新しい発見があると思う。(委員)

○墨田区社会福祉事業団も社会福祉法人改革を受けて理事会等の改革を行った。また、新たなニーズに答えていくためにも、今後の事業団について考えていきたい。(委員)

○プラットフォームの考え方にある連携の支援を、地域で自動的に行われていくよう支援をしていきたい。(委員)

○保健所は相談窓口の第一線であり、様々な関係者の橋渡しになっている。今後も、このような会で情報提供を行っていきたい。(委員)

○フォーマルな存在である児童相談所が東京都から区に移管される経緯がある。今後は、インフォーマルなプラットフォームから敏感に察知し、フォーマルな児童相談所に話をつなげられたらと思う。(委員)

○地域の鐘ヶ淵通り商店街で、この3年間毎年サンバカーニバルを開催するため、町会、区、小学校などと連携しており、今までつながりのなかった人がつながりを持つことができ、これこそが問題発見プラットフォームだと感じた。また、誰もが参加しやすいお祭りなどを通して地域が

活性化していけると思う。(委員)

## 【8】まとめ(山口副会長)

### ○総評

荘司委員のプラットフォームに対する認識が非常に分かり易かった。例えば、鍋料理をもとにプラットフォームを考えてみる。

- 1 今日寒いから鍋にする。(テーマ)
- 2 鍋を作るには、器の中に具材を入れる必要がある。  
「器」が「プラットフォーム」で、「具材」がそこに「集まる人や団体」である。
- 3 どういう風に煮込むか、どういう味付けにするか。(議論)
- 4 作り方次第で美味しいや不味いという結論になる。(議論のすえ結果がでる)

プラットフォームはこのようなイメージだと思う。

今日の会議はプラットフォームが見え隠れしていたため、プラットフォームの観点をもちまとめをしたい。

### ○第三次墨田区地域福祉計画利用者の声について

利用者の声を聴く意味は、地域で何が起きているかを理解するためである。また、トップダウンで物事を決めるのではなく、地域が自立し共存することで問題解決を図る体制を作ることが必要である。プラットフォームを推進するうえで、地域の声、利用者の声を聴くことは最初の作業である。

### ○地域福祉活動計画の中間報告について

「みんながつくる ひとがつながる やさしいまち」という基本理念のうち「つながる」という言葉がキーワードということが分かった。「つながる」ということは、まず出会うことから始まり、お互いに理解し合い、認め合うことで、信頼関係が築ける。つながりという理念を実施していく土台となるのが、プラットフォームであることが地域福祉活動計画の目標から分かった。墨田区地域福祉計画と地域福祉活動計画は同じ理念を持っていることがここからも発見できた。

### ○社会福祉法人改革について

全ての法人、施設は地域福祉の拠点であると考えられる。DV等の法人の管轄を超える問題に全ての法人がどのように取り組んでいくかが課題である。地域の中のプラットフォームで社会福祉法人がどのように地域課題に取り組んでいくのかを考えなければならない。

### ○墨田区で掲げるプラットフォームについて

プラットフォーム作りで大事なことは、トップダウンで作られるのではなく、地域で自主的に作られることとテーマがあることである。また、プラットフォームには様々な人や団体が集まり、コミュニケーションを図ることで、信頼関係が生まれてくる。この活動を通して、今までの制度では解決できなかったものを解決する仕組みでもある。